

平成二十四年度入試報告  
東大・京大・東工・一橋43名

東大22名で昨年に続き健闘  
筑波大33名  
進路指導部長 白井 健司

平成24年度入試は、前年度よりセンター試験の平均点が全体的に上昇、東京大学などの第一段階選抜ラインの予測が難しかったが、当該学年の綿密な指導で成功裡に乗り切った。

センター試験志願者数は昨年比約3450人減の約55万5千5百人、国立の志願倍率は4.91倍(国立4.55、公立6.36倍)で、前年度の5.01倍よりやや低下した。難関国立大学(東工大2類、6類など)の後期日程の廃止により難関大学前期志願者の後期の受け皿が減少したこと、公立大学の志願者数が減少したことによる。難関大の志願者数は、前年と大きな違いはないが、本校生受験者の多い東京大の理系、東京工業大などが増加した。また、ここ数年の文低理高の傾向は続いており、社会科学系志願者が減少した。大学入試センター発表によると、英語124.2(+1.4)、数I・A70.0(+4.0)、物理I68.0(+5.0)、化学I(+8.6)と、平均点が上昇した。理系の受験者は物理と化学を選択する者が多く、理系の平均点の上昇は、特に東大のいわゆる足切りラインの予想を難しくした。実際理Iは770点(昨

年729点)という極めて高い点数となり、受験関連産業の予想にもばらつきが出た。本校生の平均点は、文系が687.3点(昨年比+15.9点)、理系が698.1点(昨年比+7.9点)と文系理系とも理系は昨年に続き上昇した。今春の入試結果について、主なもの挙げると以下のようなのである。

- 1 東京大学22名(新卒13名)
  - 2 京都大学6名(新卒0名)
  - 3 東工大学8名(新卒6名)
  - 4 一橋大学7名(新卒2名)
  - 5 東北大学21名(新卒15名)
  - 6 筑波大学33名(新卒23名)
  - 7 国立大医学科14名(新卒7名)
- 東大は昨年度29名、今年度22名と減少したが、一昨年回復した20名台を守った。内訳を見ると、現役で、難関の文一に3名、文二に3名、文三に1名と7名の合格者を出している。逆に理系は理科一に3名、理科二に2名であった。また後期試験で1名合格し文一に入った。現役合格者数の13名は全国の公立高校と比較した場合、見劣りしない数字である。全体の合格者数を伸ばすには、浪人をして受験する生徒の数をどう確保するかが鍵である。昨年度の卒業生には再挑戦するよう指導がなされており、25年度入試の結果が待たれる。地元筑波大は、昨年より減らしたものの、東北大学は20名を越え、合格率は40%であった。総じて、難関国立をを目指す姿勢を変えずに健闘したといえる。

平成24年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

\*新卒は内数です

大 学	合格者	新 卒
北海道大	9	5
東 北 大	21	15
山 形 大	2	1
茨 城 大	7	6
筑 波 大	33	23
宇 都 宮 大	2	2
群 馬 大	2	2
千 葉 大	13	8
お茶の水女子大	2	2
電 気 通 信 大	1	1
東 京 大	22	13
東京医科歯科	1	1
東京外語大	3	2
東京学芸大	1	1
東京工業大	8	6
東京農工大	3	3
一 橋 大	7	2
横浜国立大	5	2
信 州 大	4	1
浜松医科大	1	1
名古屋大	4	2
京 都 大	6	
大 阪 大	6	3

大 学	合格者	新 卒
神 戸 大	2	2
九 州 大	3	1
宮 崎 大	1	1
鹿 児 島 大	1	1
国際教養大	1	1
福島県立医科大	1	1
茨城県立医療大	2	2
首都大東京	3	2
横浜市立大	2	1
静岡県立大	1	1
大阪市立大	1	
国公立大計	181	115
(うち医学科)	14	7
防衛医科大学校	2	
国立看護大学校	1	
防衛大学校	1	1
航空保安大学校	1	1
大学校計	5	2

大 学	合格者	新 卒
青山学院大	20	10
学習院大	16	8
慶 応 大	52	21
国際基督大	7	3
上 智 大	23	8
中 央 大	27	10
津 田 塾 大	2	2
東京女子大	8	4
日本女子大	20	12
東京理科大	74	30
明 治 大	70	30
立 教 大	64	41
早 稲 田 大	71	20
法 政 大	28	11
北 里 大	5	2
芝 浦 工 大	15	5
日 本 大	17	5
同 志 社 大	4	3
立 命 館 大	4	
そ の 他	117	4
私立大計	644	274
合格者総数	830	391